

- 《履修上の留意事項》
1. 授業の順序や担当者に変更のある場合には事前に通知する。
 2. 内科学は分量が多いため、予習・復習を欠かさないこと。
 3. 数回分のプリントをまとめて配布する場合があるので、忘れずに持参すること。
 4. 疑問点があれば、遠慮なく質問すること。
 5. 机の上には講義と関係のないものは一切おかないこと。

《担当者名》 教授 / 高橋 伸彦 [ntkhs@]
 准教授 / 大村 一将 [kohmura@]

【概要】

内科学は大きく総論と各論の二つに分けられる。総論では内科疾患にみられる主要症候や診断の基本を学び、各論では様々な疾患について、循環器系や内分泌系といった臓器・器官別に学習を進めていく。授業ではまず、疾患の理解に必要な解剖・生理を復習し、次に各臓器・器官の異常でよくみられる症状や病態について、基礎医学の知識を織り交ぜて理解する。さらに各疾患においては、その症状、診断（画像検査、検体検査などを含む）、治療について学習する。また、内科疾患のなかでも口腔疾患の症状・症候が契機となって発見されるものや、顎・顔面・口腔領域の症状や症候を呈するものについては特に詳しく学ぶ。これらの学習を通じて、患者の全身状態に応じたきめこまやかな歯科診療の実践に役立つ知識を身につける。

【学修目標】

- 優れた歯科医療の実践のために、全身疾患と顎・顔面・口腔疾患とのかかわりあいについて理解する。
- 全身疾患に罹患した患者が安心して歯科治療を受けられるよう、内科疾患の予防および診断、治療に関する知識を身につける。
- 内科疾患に関連した症状や徴候を説明する。
- 疾患の診断や治療に必要な検査を選択し、解釈する。
- 全身疾患の部分症となる口腔疾患の症状・症候を説明する。
- 顎・顔面・口腔症状から全身疾患を推論する。
- 内科疾患の治療に用いられる薬剤と口腔疾患との関連を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	内科学総論	内科学の必要性を理解する。 患者に対する医師の心得を学ぶ。 [A-1-1)- 、 A-1-2)-] 内科疾患の既往症の取り方、問診について学ぶ。 [A-2-1)- 、 A-3-] 病因論を理解する。 症候学を学ぶ。医療人として必須の医療知識を取得する。 [E-6-]	高橋 伸彦
2	循環器疾患 A 総論 基礎的事項 解剖 病態生理 症状 検査 B 各論 不整脈	心臓の解剖、刺激伝導系、冠状動脈について説明できる。 [C-3-4)-(4)-] 心音発生の機序について説明できる。 心不全の機序について説明できる。 [E-6-] 循環器疾患の一般的症状について説明できる。 [E-6-] 心電図の意味、X線写真上の心臓陰影について説明できる。 [E-1-3)-] 不整脈の分類、発生の機序、危険な重症不整脈について説明できる。 [E-6-]	高橋 伸彦

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
3	B 各論 虚血性心疾患 心内膜炎 その他の心疾患 高血圧と低血圧症 C 歯科関連事項	虚血性心疾患の分類、危険因子について説明できる。狭心症、心筋梗塞の症状、治療や歯科治療との関係について説明できる。 [E-6-] 感染性心内膜炎の病態、原因菌、予防について説明できる。 [E-6-] 弁膜症と心不全、先天性疾患の病態と症状について説明できる。 血圧の構成因子、血圧異常の原因、正常血圧の定義について説明できる。また、歯科治療と血圧の関連について説明できる。 [C-3-4)-(4)-、E-6-] 歯科疾患と虚血性心疾患、心内膜炎、高血圧について説明できる。 [E-6-]	高橋 伸彦
4	呼吸器疾患 A 総論 解剖と生理 主要症状 主要身体所見 検査と診断	呼吸器の形態と解剖について学ぶ。 [C-3-4)-(8)-] 肺機能（1. ガス交換；換気、拡散、肺循環、2. 防御機能、3. 代謝機能）について学ぶ。 咳嗽、喀痰、血痰・喀血、喘鳴、呼吸困難・息切れ（Hugh-Jonesの分類）、嚙声の定義・発症機序などについて学ぶ。 換気異常、起坐呼吸、チアノーゼ、ばち状指の定義について理解する。 呼吸機能検査について理解する。 動脈血ガス分析について、その意義と解釈について理解する。 呼吸機能検査による呼吸器疾患の分類（閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患）を理解する。 動脈血ガス分析結果が診断に有用な呼吸不全（CO ₂ ナルコーシス）、成人呼吸窮迫症候群、過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群について学ぶ。 [E-1-3- -][E-6)-]	高橋 伸彦
5	B 各論 肺感染症 かぜ症候群 インフルエンザ 肺炎 日和見感染症 肺結核（粟粒結核） 閉塞性肺疾患 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患	かぜの原因となるウイルス、細菌と治療について学ぶ。 インフルエンザの臨床的特徴、インフルエンザの迅速診断法と特異的治療について学ぶ。 肺炎の分類（市中肺炎と院内肺炎）を学ぶ。 細菌性肺炎（肺炎球菌、インフルエンザ菌など）や異型肺炎（マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎、レジオネラ肺炎）の診断と治療について学ぶ。 免疫不全時に発症しやすい肺炎について学ぶ。 感染様式（空気感染と飛沫感染の違い）について復習し、理解する。 [C-4-1)-] 肺結核の発症誘因（糖尿病、免疫不全状態など）、検査や治療方法について学ぶ。 [E-1-3- -][E-6)-][C-6-4)-] 気管支喘息の概念、発症機序、発作強度と重症度、発作時の対応、治療ガイドラインについて学ぶ。 [E-6)-] 慢性閉塞性肺疾患の概念、病態について学ぶ。 [E-6)-]	大村 一将
6	拘束性肺疾患 サルコイドーシス 肺腫瘍	特発性間質性肺炎、過敏性肺臓炎、膠原病肺の病態について学ぶ。 サルコイドーシスの概念、病理学的特徴、特に結核との鑑別点、症状について学ぶ。 肺腫瘍の分類。原発性肺癌の疫学、喫煙との関連、転移様式、治療などについて学ぶ。	大村 一将

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	肺血管疾患 胸膜疾患 C 歯科関連事項	[C-5-6)- -] [E-6)-] 肺塞栓症・肺梗塞症の基礎疾患、症状と治療について学ぶ。 [C-5-4)-] [E-6)-] 自然気胸、胸膜炎について学ぶ。 気管支喘息患者、慢性閉塞性肺疾患患者の歯科治療における留意点について学ぶ。 [E-6)-] 肺塞栓症の既往を有する患者の治療内容の考察と歯科治療における留意点について学ぶ。 [C-6-4)-] [E-6)-]	
7	内分泌疾患 A 総論 内分泌腺の解剖と機能 ホルモンの種類と作用 ホルモンの分泌調節機構 内分泌疾患の病因と定義 B 各論 下垂体疾患	視床下部、下垂体前葉・後葉、甲状腺、副甲状腺、副腎皮質・髄質、性腺の解剖と機能について説明できる。 下垂体前葉ホルモン、抗利尿ホルモン(バソプレシン)、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン(パロトルモン)、副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモンの作用について理解する。 [C-3-4)-(9)-] ホルモンの化学的分類(ペプチドホルモン、ステロイドホルモンなど)と基本的な作用機序について学ぶ。 [C-2-4)-] ホルモンの分泌調節機構、特にフィードバック機構(視床下部-下垂体-標的臓器の関係)について学ぶ。 内分泌疾患の病態(ホルモンの過剰又は欠乏症)と基本的な病因(腫瘍や炎症)について学ぶ。 下垂体前葉機能亢進症(先端巨大症や下垂体性巨人症と顎顔面症状)、下垂体前葉機能低下症(汎下垂体前葉機能低下症、Sheehan症候群、成長ホルモン分泌不全性低身長症)、尿崩症(特にその病態)について学ぶ。	高橋 伸彦
8	甲状腺疾患 副甲状腺疾患	甲状腺機能亢進症(Basedow病)の病因(抗TSH受容体抗体)や症状・徴候(頻脈、振戦など)と甲状腺クリーゼについて学ぶ。 [E-6)-] 甲状腺機能低下症(橋本病、クレチン症)の病因や症状について学ぶ。 [E-6)-] 甲状腺腫瘍、特に髄様癌について学ぶ。 血清カルシウムの調節機構に關与するホルモンについて学ぶ。 原発性および続発性副甲状腺機能亢進症の病態と症状・徴候について学ぶ。 副甲状腺機能低下症の鑑別について学ぶ。 低Ca血症やテタニー症状について学ぶ。	高橋 伸彦
9	副腎皮質疾患 副腎髄質疾患 C 歯科関連事項	副腎皮質機能低下症(Addison病、副腎クリーゼ)の病態と症状・徴候(口腔内色素沈着など)について学ぶ。 ステロイドカバーの必要な疾患と対処法について学ぶ。 Cushing症候群の病態とその鑑別や症状(満月様顔貌、口腔内色素沈着など)について学ぶ。 原発性アルドステロン症の病態と高血圧の発症機序について学ぶ。 褐色細胞腫の病態について学ぶ。 Basedow病や褐色細胞腫患者の歯科治療時の留意点について学ぶ。 内分泌疾患の顔面・口腔症状をまとめ、診断にお	高橋 伸彦

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		ける身体所見の重要性を理解する。 [E-2-4)-(10)-]	
10	代謝疾患 A 総論 B 各論 糖尿病	糖質・蛋白質・脂質代謝について説明できる。 [C-2-1)-] 糖代謝、特にインスリンの作用について学ぶ。 糖尿病の定義、病態、病型分類(特に1型と2型の鑑別)について学ぶ。 [E-6-] 糖尿病の症状(口渇など)、診断、検査(血糖値、HbA1c、尿ケトン体など)について学ぶ。 [E-2-4)-(10)-] 糖尿病の慢性合併症[三大合併症(神経障害、網膜症、腎症)、大血管障害、認知症、歯周病など]について学ぶ。 高血糖緊急症(糖尿病ケトアシドーシス、高血糖高浸透圧症候群)について学ぶ。 低血糖症の原因、糖尿病治療薬との関係、症状、対処法について学ぶ。 糖尿病の治療(特にインスリンやスルホニル尿素薬、ピグアナイド薬)について学ぶ。	高橋 伸彦
11	脂質異常症 高尿酸血症・痛風 肥満症 メタボリックシンドローム るいそうとサルコペニア ビタミン欠乏症・過剰症 代謝性骨疾患 アミロイドーシス	脂質異常症の定義や診断、動脈硬化症との関係について学ぶ。 高尿酸血症・痛風の症状と合併症について学ぶ。 肥満症とメタボリックシンドロームの病態や診断基準について学ぶ。 るいそうとサルコペニアの病態や診断基準について学ぶ。 ビタミン欠乏症と過剰症の症状について学ぶ。 [E-2-4)-(10)-] 代謝性骨疾患の分類、病態について学ぶ。 骨軟化症とくるぶしの病態や原因について学ぶ。 骨粗鬆症の定義、続発性骨粗鬆症の原因疾患、骨密度検査(DXA)、骨折好発部位について学ぶ。 [E-6-] 骨粗鬆症の治療薬(作用機序や副作用)について学ぶ。 アミロイドーシスの概念、症状(巨大舌など)、検査(Congo-Red染色)について学ぶ。	高橋 伸彦
12	神経疾患 A 総論 解剖と生理 主要症状 神経学的所見 検査 B 各論 脳血管障害 感染症 脳腫瘍	神経の解剖学分類(中枢神経系、末梢神経系)と機能的分類(運動神経、感覚神経、自律神経)、各神経のはたらきについて説明できる。 [C-3-4)-(5)-] 錐体路と錐体外路の違いについて学ぶ。 神経疾患に由来する症状(意識障害、認知症、運動障害、知覚障害、不随意運動の他、歯科臨床と関連の深い脳神経症状(嚥下障害、咀嚼障害、顔面の知覚障害・運動障害、味覚障害、舌の運動障害、めまい、聴力障害、視覚障害など)について学ぶ。 [E-1-4)-(1)-] 各脳神経の診察法を学ぶ。 髄膜刺激症状、腱反射や病的反射の意義について説明できる。 髄液検査や脳CTや脳MRIによる画像検査の基本について学ぶ。 脳血管障害(脳出血、脳梗塞、クモ膜下出血)の原因や病態、およびその後遺症(四肢麻痺や構語障害、嚥下障害など)について学ぶ。 髄膜炎および脳炎について学ぶ。 脳腫瘍に関する基本的事項について学ぶ。	高橋 伸彦
13	認知症をきたす疾患	認知症の概念、症状(中核症状と行動・心理症状)	高橋 伸彦

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		BPSD)、認知機能の検査法(HDS-R、MMSE、FAST)について学ぶ。 認知症の原因疾患(Alzheimer型認知症、レビー小体型認知症、脳血管性認知症、前頭側頭型認知症など)について学ぶ。 [E-5-1)- 、E-6-]	
14	神経変性疾患 脱髄疾患 末梢神経疾患	Parkinson病の病因(レビー小体病を含む)や病態、症状(振戦、固縮、無動など)、歯科診療上の注意点について学ぶ。 [E-5-1)- 、E-6-] 筋萎縮性側索硬化症の病態や主な症状(特に球麻痺症状)について学ぶ。 多発性硬化症の病態や症状について学ぶ。 ギラン・バレー症候群の病態や臨床経過について学ぶ。 顔面神経麻痺(Bell麻痺、Ramsay-Hunt症候群)の症状と鑑別について学ぶ。 [E-2-4)-(9)-] 糖尿病性神経障害(主に多発神経障害)、三叉神経痛について学ぶ。 [E-2-4)-(9)-]	高橋 伸彦
15	筋疾患 てんかん C 摂食・嚥下障害 球麻痺、偽性球麻痺	重症筋無力症の病因(自己免疫異常:抗アセチルコリン受容体抗体)や病態、主症状について学ぶ。 進行性筋ジストロフィーの主な症状及び病態生理について学ぶ。 てんかん発作の種類と原因、抗てんかん薬(副作用も含む)について学ぶ。 [E-6-] 摂食・嚥下障害の病態と原因疾患について学ぶ。 [E-2-4)-(11)- 、E-5-1)-] 球麻痺と偽性球麻痺の特徴や鑑別診断について学ぶ。	高橋 伸彦
16	腎臓疾患 A 総論 解剖と生理 酸塩基平衡 主要症状 腎機能検査 治療	ネフロン(糸球体、尿細管)の構造と機能について説明できる。 [C-3-4)-(10)-] ホルモン産生臓器としての腎臓の役割について学ぶ(レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系、エリスロポエチン、ビタミンDなど)。 腎臓に作用するホルモンについて学ぶ。 [C-3-4)-(9)-] 水・電解質代謝、酸塩基平衡(代謝性アシドーシス、代謝性アルカローシス、アニオンギャップ)に果たす腎の役割について理解する。 [C-3-4)-(10)-] 尿量・排尿の異常(乏尿・無尿、多尿など)の定義、発症機序、臨床的意義について学ぶ。 尿の性状の異常(色調、たんぱく尿、血尿、円柱)の定義と発症機序、臨床的意義について学ぶ。 浮腫の発生機序について学ぶ。 [C-5-4)-] BUN、クレアチニン、クレアチニン・クレアランス、糸球体濾過率、eGFR、Fishberg濃縮試験などの腎機能検査の意義について学ぶ。 [E-6)-] 腎疾患の治療法としての安静、食事療法、薬物療法と透析や腎移植の現状について学ぶ。 [E-6)-]	大村 一将
17	B 各論 糸球体腎炎 原発性糸球体腎炎	溶連菌感染後急性糸球体腎炎、急速進行性腎炎症候群、慢性糸球体腎炎(IgA腎症を含む)の分類、症状について学ぶ。	大村 一将

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	全身性疾患の腎障害 ネフローゼ症候群 腎血管性高血圧症 腎不全 慢性腎臓病 尿細管機能異常 C 歯科関連事項	糖尿病性腎症、痛風腎、腎硬化症、膠原病性腎症（ループス腎炎、強皮症腎など）について学ぶ。 定義、診断基準、症状、原因疾患と治療について学ぶ。 腎臓からのレニン産生の亢進により生じる高血圧症の概念、治療について学ぶ。 分類（急性腎不全、慢性腎不全）、発生機序、原因疾患、診断、治療について学ぶ。 慢性腎臓病（CKD）の概念について学ぶ。 尿細管性アシドーシス、腎性糖尿、腎性尿崩症について学ぶ。 薬剤性腎障害（口腔癌患者へ投与される抗癌剤、感染予防又は治療での抗生物質、非ステロイド性抗炎症薬など）について学ぶ。 [C-6-4)-][E-6)-]	
18	臨床免疫学総論 免疫系を構成する因子 自然免疫と獲得免疫 獲得免疫の分類 体液性免疫 細胞性免疫 免疫応答と疾病・病態 感染免疫 免疫不全症候群 歯科関連事項 アレルギー疾患 A 総論 アレルギー反応の分類と疾患 型アレルギーの症状 アレルギーの問診 アレルギーの検査法 膠原病・自己免疫疾患 A 総論 膠原病の定義 病態生理 主要症状 検査法 治療	免疫・遺伝学、口腔細菌学で学んだ免疫学の知識について、復習する。 [C-4-2)- -] 抗体の産生、T細胞の抗原応答、サイトカイン、B細胞・T細胞の分化、NK細胞・NKT細胞とその機能、食細胞とその機能、補体系とその機能について説明できる。 [C-4-2)-] 免疫応答の異常が、具体的に現実の疾患の発症にどのように関与するのかを理解する。 原発性免疫不全症候群について説明できる。 自己免疫疾患の定義、分類について説明できる。 口腔・顎・顔面症状をきたす原発性免疫不全症候群について学ぶ。 [C-4-2)-][C-5-1] アレルギーの分類について説明できる。 アレルギー反応に関与する抗体、細胞、サイトカインについて説明できる。 [C-4-2)-] アレルギー反応により発症する疾患の概要について学ぶ。 型アレルギーの症状について学ぶ。 アレルギーの問診事項について学ぶ。 各種アレルギー反応に対する検査法について学ぶ。（IgE RAST、皮内反応、パッチテストなど）。 [E-2-4)-] 膠原病、膠原病類縁疾患の定義について学ぶ。 膠原病・自己免疫疾患の病因について学ぶ。 膠原病にみられる皮膚、粘膜、関節、眼、筋肉、神経、循環器、呼吸器、腎症状について学ぶ。 血液検査、尿検査、組織生検検査の意義について学ぶ。 自己抗体検査（抗核抗体、リウマトイド因子、疾患標識自己抗体）、血清補体価、LE細胞などの特殊検査について学ぶ。 [E-2-4)- (10)-][E-1-3)- -] 副腎皮質ステロイド薬や免疫抑制薬の薬理作用、投与法、副作用について学ぶ。 [C-3-4-(9)-]	大村 一将
19	アレルギー疾患 B 各論 アナフィラキシー 気管支喘息 アトピー性皮膚炎	アナフィラキシーの症状と臨床経過について学び、適切な対応方法を知る。 気管支喘息の発症機序と、発作時の対応について学ぶ。 発症原因、現状、治療について学ぶ。 [E-6-]	大村 一将

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	アレルギー性鼻炎・花粉症 血清病 金属アレルギー 薬物アレルギー C 歯科関連事項	アスピリン喘息などの薬物不耐症や抗生物質や非ステロイド系抗炎症薬によるアレルギーについて学ぶ。 歯科診療上問題となるラテックスアレルギー、アスピリン喘息、金属アレルギーについて詳しく学ぶ。 [E-6-] [C-6-4)-]	
20	膠原病・自己免疫疾患 B 各論 関節リウマチ 全身性エリテマトーデス Sjogren症候群 Behcet病 強皮症 皮膚筋炎 / 多発筋炎 その他の膠原病類縁疾患 自己免疫性水疱症 C 歯科関連事項	概念、病態生理、症状（関節症状、関節外症状、顎関節炎）、診断基準、治療を説明できる。 [E-2-4)-(7)- , (10)-] [E-6-] 概念、病態生理、症状（顔面・口腔症状、口腔潰瘍）、診断基準、治療を説明できる。 [E-6-] [E-2-4)-(10)-] 概念、病態生理、症状（腺症状：口腔症状、腺外症状）、診断基準、治療を説明できる。 [E-6-] [E-2-4)-(10)-] [F-2-2)-] 概念、症状（口腔症状）、治療について説明できる。 [E-6-] [E-2-4)-(10)-] 概念、症状（顔面、口腔症状）、治療について説明できる。 概念、症状（顔面、口腔症状）、治療について説明できる。 疾患の紹介にとどめる。 天疱瘡、類天疱瘡について学ぶ。 [E-2-4)-(4)] 顔面、顎・口腔に症状をあらわす膠原病について知識を整理し、これらの所見が診断に有用であることを認識する。 Sjogren症候群にみられる唾液分泌低下と歯の齲蝕や酸蝕に関与について説明できる。 [E-2-4-(8)-] 副腎皮質ステロイド薬を服用中の膠原病患者の歯科治療における留意点（易感染性、ステロイド離脱症候群など）と対処法について説明できる。 [C-3-4-(9)-] [C-6-4)-]	大村 一将
21	消化器疾患：消化管疾患 A 総論 解剖と生理 主要症候と病態生理 検査法 B 各論 食道疾患 胃・十二指腸疾患 小腸・大腸疾患	食道、胃、小腸、大腸の解剖および生理機能（栄養素の消化・吸収）について説明できる。 [C-3-4)-(7)-] 消化管疾患の主な症状（嚥下障害、吐血、悪心・嘔吐）について学ぶ。 消化管の検査法（バリウム造影検査や内視鏡検査など）について学ぶ。 食道の主要疾患（胃食道逆流症、食道アカラシア、食道静脈瘤、食道癌など）の病態や症状について学ぶ。 義歯の誤嚥や歯科治療器具の食道内への落下について対処法を学ぶ。 Helicobacter pylori菌感染症について学ぶ。 胃の主要疾患（胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌）の病態や症状について学ぶ。特に歯科診療で用いられる消炎鎮痛剤や副腎皮質ステロイド薬と胃潰瘍の関係について学ぶ。 [E-6-] 小腸および大腸の主要疾患（虫垂炎、大腸癌、腸閉塞など）について学ぶ。 炎症性腸疾患、特にクローン病の病態や症状（痔瘻やアフタ性口内炎）、治療について学ぶ。	高橋 伸彦
22	小腸・大腸疾患 消化管疾患と口腔症状 C 栄養療法	抗菌薬の消化管における副作用（偽膜性腸炎・出血性大腸炎）について学ぶ。 口腔症状を呈する消化管ポリボース、Peutz-Jeghers症候群やGardner症候群について学ぶ。 [E-2-4)-(10)-]	高橋 伸彦

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<p>栄養療法(経静脈栄養、経腸栄養)の種類、利点と欠点について学ぶ。 [E-5-1)-] 経静脈栄養に合併するバクテリアル トランスロケーションについて学ぶ。 胃瘻の利点と欠点について学ぶ。 経腸栄養で用いられる栄養剤について学ぶ。</p>	
23	<p>消化器疾患-肝疾患 A 総論 解剖と生理 主要症状 検査 B 各論 急性肝炎・慢性肝炎・劇症肝炎 ウイルス性肝炎</p>	<p>肝臓の解剖(脈管系や肝小葉を含む)と生理機能について学ぶ。 [C-3-4)-(7)-] 黄疸の発生機序(ビリルビン代謝)について説明できる。 肝機能検査(血液、尿およびICG検査)の種類(AST、ALT、ALPなど)やその解釈について学ぶ。 肝疾患の画像検査について学ぶ。 急性肝炎、慢性肝炎、劇症肝炎の病態と経過について学ぶ。 [E-6-] 肝炎ウイルス、特にA型・B型・C型肝炎の特徴やウイルスマーカーの選択と結果の解釈について学ぶ。 免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎(B型肝炎の再活性化)の病態やおこり得る患者の選別(HBs抗原、HBc抗体、HBs抗体の解釈を含めて)について学ぶ。</p>	高橋 伸彦
24	<p>ウイルス性肝炎 自己免疫性肝疾患 薬剤性肝障害 肝硬変 肝癌 消化器疾患-胆嚢・膵臓疾患 A 総論 解剖と生理 胆嚢炎、胆石症 膵炎、膵癌</p>	<p>歯科診療におけるウイルス性肝炎の感染予防対策(B型肝炎ワクチン)について学ぶ。 針刺し事故の対応について学ぶ。 薬剤性肝障害の病態と原因薬剤(NSAIDs、抗菌薬)について学ぶ。 自己免疫性肝疾患(自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎/肝硬変)の病態と検査について学ぶ。 肝硬変症の原因および病態(門脈圧亢進症を含む)、症状・徴候(浮腫、クモ状血管腫など)について学ぶ。[E-6-] 肝硬変症でみられる血液検査異常(汎血球減少や凝固因子低下など)と特に歯科診療上注意すべき止血困難の関係について学ぶ。 肝癌の基本的事項(原発性肝癌の腫瘍マーカーであるAFPを含めて)について学ぶ。 胆嚢・膵臓の解剖及び生理機能について説明できる。 [C-3-4)-(7)-] 胆嚢炎、胆石症、膵炎、膵癌などの疾患について概略を学ぶ。</p>	高橋 伸彦
25	<p>血液・造血器疾患総論 A 血球の種類と役割 B 造血のしくみ C 主要症状 赤血球異常による疾患 A 貧血(各論)</p>	<p>血球成分の種類(赤血球、白血球、血小板)とそれぞれの生理的機能について説明できる。 [C-3-4-(4)-] 主たる造血組織である骨髄とリンパ節における造血(血球の分化・成熟)のしくみについて説明できる。 [C-3-4-(4)-] 歯科診療で遭遇する貧血、出血傾向、頸部リンパ節腫脹を中心に、その病態生理や鑑別診断について学ぶ。 [E-6-]</p>	高橋 伸彦

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	鉄欠乏性貧血 悪性貧血 再生不良性貧血 溶血性貧血 続発性貧血 B 赤血球増多症	鉄欠乏性貧血の特徴及び歯科領域の症状を有するPlummer-Vinson症候群について説明できる。 [E-2-4)-(10)-] 悪性貧血について説明できる。ビタミンB ₁₂ の意義やHunter舌炎や神経症状など歯科診療と関係する症状について説明できる。 [E-2-4)-(10)-] 汎血球減少に伴う感染症・出血など歯科診療との関連について説明できる。 [E-2-4)-(10)- 、E-6-] 貧血と黄疸を特徴とする薬剤起因性の溶血性貧血について病態生理を説明できる。 [E-2-4)-(10)-] 慢性炎症や悪性腫瘍、腎不全に伴って起こる続発性貧血について説明できる。 真性及び続発性赤血球増多症を簡単に学ぶ。 [E-2-4)-(10)- 、E-6-]	
26	白血球及びリンパ網内系の疾患 A 好中球減少症 B 伝染性単核球症 C 急性・慢性白血病 D 悪性リンパ腫 E 多発性骨髄腫	抗生物質や消炎鎮痛剤など多くの薬剤によって起こる好中球減少症、及びそれによる重篤な感染症（敗血症など）発症について説明できる。 [E-2-4)-(10)- 、E-6-] 頸部リンパ節腫脹をきたす疾患として頻度の高い伝染性単核球症（EBウイルス感染症）の診断、治療について説明できる。 [E-2-4)-(10)- 、E-6-] 白血病の一般的症状及び化学療法や造血幹細胞移植に伴う歯科領域の問題点について説明できる。また、歯肉腫脹をきたしやすい単球性白血病について学ぶ。 [E-2-4)-(10)- 、E-6-] 悪性リンパ腫の基礎的知識を学び、歯科領域（頸部リンパ節、口蓋扁桃・咽頭を含むワルダイエル領域、唾液腺など）にも発生することを理解する。 (F-2-4)-(7)-) 形質細胞由来の腫瘍で骨（顎骨など）を破壊し免疫能を低下させる疾患であることについて説明できる。 [E-2-4)-(10)- 、E-6-]	高橋 伸彦
27	血栓止血学 1．生理的止血機序 2．凝固因子と血小板 3．凝固反応とその制御因子 4．線維素溶解反応 5．凝固異常の検査	生理的止血機序を理解し、その破綻に伴う出血機序や血栓機序を学ぶ。[C-5-4-] 凝固因子の種類と役割、および血小板の構造と作用を理解する。[C-3-4)-(4)-] 正常な凝固反応とその制御機構を学び、その破綻による出血機序と血栓機序を理解する。[C-3-4)-(4)-] 線維素溶解反応に関わる因子およびその反応を説明できる。[C-3-4)-(4)-] 出血性疾患および血栓性疾患の診断や治療効果を判断する臨床検査を学ぶ。[E-1-3)-]	高橋 伸彦
28	出血素因を主徴とする疾患 1．血小板異常 a．特発性血小板減少性紫斑病 < ITP > b．薬物起因性血小板減少症	特発性血小板減少性紫斑病の血液学的検査、出血症状の特徴について説明できる。 [E-2-4)-(10)- 、E-6-] 抗癌剤、抗生物質、消炎鎮痛剤など、歯科診療と関係の深い薬物による血小板減少症について理解す	高橋 伸彦

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	<p>2. 血液凝固異常</p> <p>a. 血友病</p> <p>b. von Willebrand病</p> <p>c. ビタミンK依存性血液凝固因子欠乏症</p> <p>d. 全身性血管内凝固症候群(DIC)</p> <p>血栓性疾患</p> <p>1. 血栓性素因と抗凝固療法</p>	<p>る。抗消炎剤による血小板機能抑制について説明できる。 [C-5-4)- 、E-6-]</p> <p>血友病A、Bの出血症状の特徴などの臨床像、検査結果の解釈の仕方、歯科治療時の補充療法などについて説明できる。 [C-5-4)- 、E-6-]</p> <p>鼻出血、歯肉出血が頻発するvon Willebrand病の病態、症状、治療について説明できる。 [C-5-4)- 、E-6-]</p> <p>新生時、重篤な肝疾患にみられるビタミンK欠乏に起因する出血性疾患について説明できる。 紫斑や口腔粘膜出血などを見るDICの臨床症状、検査所見の特徴などを理解する。 [C-5-4)- 、E-1-3)- 、E-6-]</p> <p>歯科領域に関連する血栓性素因と血栓症や留意しなければならない抗凝固療法について説明できる。</p>	
29	<p>感染症</p> <p>A 総論</p> <p>B 各論</p> <p>1. 細菌感染症</p> <p>2. ウイルス感染症</p> <p>3. 真菌感染症</p> <p>4. スピロヘーター感染症</p> <p>5. 歯科領域と感染症</p>	<p>分類、感染源、感染経路、感染症法、主要徴候と病態生理について説明できる。 [C-4-1)-]</p> <p>感染症に関する臨床検査：血液検査や検体検査について説明できる。 [C-4-1)-]</p> <p>細菌が引き起こす感染症について、その症状や検査も含めて説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グラム陽性球菌：黄色ブドウ球菌、連鎖球菌など ・ グラム陰性桿菌：大腸菌、細菌性赤痢、コレラなど ・ 嫌気性菌：破傷風など <p>[C-4-1)-]</p> <p>歯科にとって特に重要と考えられるウイルス感染症について理解する。 [E-6-]</p> <p>口腔粘膜病変やリンパ節腫張を伴うウイルス性疾患について特にその鑑別点を中心に理解する。 [E-6-]</p> <p>麻疹、風疹、ムンプス、ヘルペスウイルス感染症（水痘、帯状疱疹、EBウイルス感染症）について、その症状や検査も含めて説明できる。 [E-6-]</p> <p>後天性免疫不全症候群とHIV感染症について説明できる。特に歯科診療は感染の場として極めて高いリスクを有しているため、感染予防対策における留意事項を中心に理解する。 [C-4-1)- 、E-2-4)-(10)- 、E-6-]</p> <p>HTLV- 感染によって引き起こされる成人型T細胞性白血病と歯科領域との関与について説明できる。 [C-4-1)- 、E-6-]</p> <p>カンジダ症（口腔、咽頭、喉頭粘膜病変）などを中心に歯科と関係の深い代表的疾患について説明できる。</p> <p>梅毒の症状、検査に関して説明できる。 全身性の感染症と口腔症状について説明できる。 [C-4-1)- 、E-6-]</p>	大村 一将

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
30	中毒 内科学のまとめ：症候論	化学物質や薬物による口内症状について説明できる。 [E-6-] これまでに学んだ内科疾患のまとめとして、症状の切り口から疾患を推定することを学ぶ。	高橋 伸彦

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（100％）

【教科書】

「歯科のための内科学（改訂第4版）」 南江堂

その他：その都度、プリントを配布する

【参考書】

「わかりやすい内科学（第4版）」 文光堂

「内科学書（改訂第9版）」 中山書店

「ハリソン内科学（第5版）」 メディカルサイエンスインターナショナル

【学修の準備】

授業が行われる前に、指定した教科書の該当部分を事前に読み、疑問点を整理する（60分）。

前回の授業で学んだ事柄について、配布プリントと教科書を用いて、十分に復習する（60分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた内科疾患の予防、診断および治療を実践するために、基本的な医学知識を身につける。

DP5.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために、特にチーム医療の対象となることが多い高齢患者にみられやすい疾患について理解・習得し、実践に応用できる。

【実務経験】

高橋 伸彦（医師）、大村 一将（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関における内科医としての実務経験を活かし、症状から診断・治療に向かう流れや、実臨床における疾患の診かたや注意点について歯科医師として診療に携わる際に役立つ講義を行う。